新年を迎えるにあたって

新年を迎えるにあたって教育長、小・中学校の校長先生よりそれぞれごあいさつをいただきました。

新年のご挨拶

広野町教育委員会教育長
芦　川　鋭　章

謹んで年のはじめのお喜びと、皆々さまのご多幸とご健勝をお祈り申し上げますとともに、学校園各般にわたる温かいご理解とご支援に心よりお礼と感謝を申し上げます。

今年も多くの町民の方々が、心身にぬくもりが要る、帰るべき故郷や家を奪われたまま、避難先で新年を迎えるなど、日常的な時間の流れと暦などから生じる意識とが噛み合わない生活を余儀なくされていることに、本当につらい思いがあります。

我が広野町を取り巻く環境は、まだまだ厳しい現状の中にありますが、山積している様々な課題に一つひとつ的確に対応し、子どもたちが安全・安心だと思える学習環境や生活環境の整備・町民の皆さま方には帰還に向けた温かいご理解・東北に春を告げるまち広野の再興等々、微力ながらも思いを新たにしたところであります。

そのためには、緩ならず・急ならず、広野町民皆さま一人ひとりの力強い縦糸を基軸に町復興という横糸を紡いでいかなければならないと思っておりますので、旧年に倍する温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

追伸：厳しい寒さがまだまだ続きます、町民の皆々さまにはご自愛下さいますようお願い申し上げます。

平成25年歳首

新年を迎えて

新しい年がスタートしました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、中学校も広野町の本来の校舎での教育活動再開を果たし、10月27日には、2年ぶりに第15回広蛍祭を開催することができました。自分たちの学校をより良いものにしたいという、子どもたちの素直な気持ちと一途ながんばりが随所に見られた素晴らしい広蛍祭であったと自負しております。震災前の広野中学校の姿に、また一歩近づくことができたことを感じました。また、町の夜を彩るイルミネーションの美しい輝きからも、広野町全体が着実に前進していることを実感することができた年でした。さらに復興が進み、昨年以上に明るい光が見える年になってほしいと心から願っております。

さて、学校は3学期に入り、1年のまとめの時期を迎えました。3年生は各自の進路目標の実現に向けて、1・2年生は進級に向けて、学習のまとめに取り組んでいるところです。それぞれの学年において、新たなステップに進むための自覚を高めていく必要があります。子どもたち全員が、素晴らしい春を迎えることができるよう、全教職員で取り組んでまいりたいと思います。

学校は子どもたちのために存在しています。子どもたちの夢を育て、今という時間を、そして将来を、夢の実現を目指して生きていくための力を身につけさせることが、教育に携わる者の目標であり夢でもあります。「子どもたちの夢を育て、教職員の夢を生かす。」こんな学校づくりを目指していかなければならないと考えながら迎えた平成25年であります。

引き続き皆様のご指導とご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げ、本校教職員を代表してのご挨拶といたします。

広野町立広野中学校長
阿　部　　央

新年を迎えて

あの3月11日の大震災から約2年が過ぎようとしています。あきらめずに生活ができているでしょうか。段々に普通の生活ができるとよいと思います。

広野小学校は、昨年8月27日にやっと本来の広野小学校再開ができました。全校児童数65名の明るく元気のよい児童と教育活動が行われるようになりました。朝夕の通学は、ちょっと大変だと思いますが、本来の学校で学校生活を送れることは安心し、思い切って活動ができています。やはり学校は、子どもがいて初めて教育活動ができるのです。これからも多くの子どもたちが広野小学校に戻ってくることを願っています。

第2学期に、実施された学習発表会には、たくさんの方々に見ていただきありがとうございました。子どもたちの全力で取り組む姿に感動したのではないかと思います。また、全校児童が出演した広野童謡まつりは、たくさんの観衆の前で歌を披露したことは、自信となり、よい経験をしたのではないかと考えています。3年生が広桜荘に訪問して、おじいちゃんやおばあちゃんと交流をしたのは、有意義な時間だったと思います。おじいちゃん、おばあちゃんの笑顔が素敵でした。これからも、教育活動を充実させ、学校運営に全力で取り組んでいきたいと考えています。ご協力お願いいたします。

復興の道のりは、険しくても、この地に育った子どもたちがこれからの日本の中心となってがんばってくれることは間違いないと感じています。

今ほど、新しい年に希望を託すときはないと思います。全ての子どもたちに幸せな光が届くことを願っています。コミュニティーの中心としての広野小学校を応援下さい。よろしくお願いいたします。

広野町立広野小学校長
三　瓶　　雅